



CimatronE 9.0

新機能紹介

一般機能

2009 年 6 月



目次

目次 ii

データインターフェイス	1
■ CimatronEに製品製造情報（PMI）を読み込む	1
■ DXF の読み込み- 改良点	2
■ DWFに製図を書き出す	3
■ DIの出力、参照座標系をアセンブリで制御する	4
■ IGES、STEPへの書出し - アセンブリ構造を制御する新規パラメータ	5
出力	6
■ プロット機能 - 機能強化	6
■ PDFに出力	7
ユーザーインターフェイスと表示	8
■ マウス中ボタン（MMB）のスクロール	8
■ テクスチャの配置	9
■ サブアセンブリ内の表示/非表示 - 改良点	10
■ ZPR-「平面に回転」- 機能強化	11
■ 隠れた直線を点線で表示する	12
■ 十字カーソル	13
その他の機能	14
■ ユーザーカスタマイズファイル：CimatronEをアップグレードしても保持される	14
■ ユーザー・プロファイルの保存と管理	15
■ コントロールパネル	16
■ ブラウザからCimatronE ウィンドウに、ファイルをドラッグ＆ドロップする	17
■ 選択- 無効要素を無視する	18
■ 円筒形状の面の稜線の中心を選択する	19
■ エラー表示 - テーパー、シェル、削除と拡張、オブジェクトの拡張機能	20
■ 座標系マネージャ	21

データインターフェイス

CimatronEに製品製造情報（PMI）を読み込む

製品製造情報（PMI）は、製品のコンポーネントの設計に関する重要な情報を提供します。

CimatronE 9.0 は Pro/E と Catia5 から PMI を読み込むことができます。

利点:

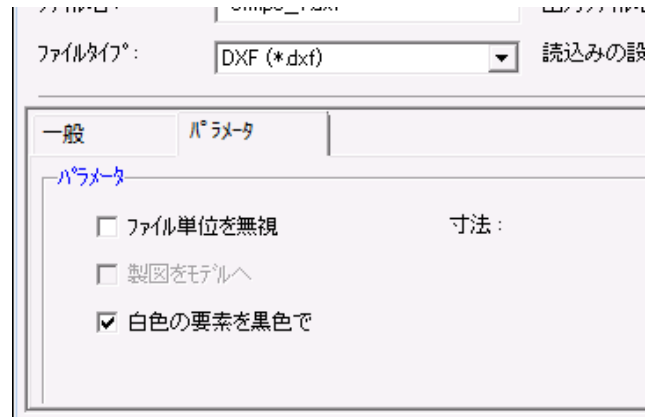
- UG と Catia ファイルから簡単に製品製造情報（PMI）にアクセスできる。
- 情報伝達の改善。

DXF の読み込み– 改良点

DXF と DWG ファイルを読み込む時、CimatronE の背景色が白色であれば、読み込んだ要素のうち白色の要素は見えにくくなります。

読み込まれた白色の要素を表示させるため、環境設定で CimatronE の背景色を変更するか、ダイアログの新規オプション：「**白色の要素を黒色で**」を選択します。

（このオプションは読み込み操作後に、全ての白色の要素を黒く表示します。



利点:

- DXF と DWG ファイルを読み込む時に白い要素が黒く表示される。

「読み込み」ダイアログ

DWFに製図を書き出す

CimatronE 9.0 では、出力機能を使用して CimatronE 製図ファイルを DWF に変換することができるようになりました。指定のルールに従って、Cimatron 属性を DWF 属性に設定することも可能です。

利点:

- 簡単に CimatronE 製図ファイルを DWF ファイルに変換できる。

DIの出力、参照座標系をアセンブリで制御する

座標系パラメータによる出力では、ファイルやアセンブリの出力時にユーザーが参照座標系を選択できます。

ドロップダウンリストには使用できる座標系が表示されています。アセンブリに対しては、アセンブリの上レベルから座標系を表示します。

ユーザーは出力されたファイル/アセンブリの参照座標系を選択します。

利点:

- アセンブリ出力時に参照座標系をユーザーが指定できる。

IGES、STEPへの書出し – アセンブリ構造を制御する新規パラメータ

CimatronE 9.0 では、ユーザーがアセンブリを IGES や STEP アセンブリに出力できるようになりました。一般タブにある「座標系による (Export by UCS)」オプションを使用し、アセンブリに座標系を選択することができます。

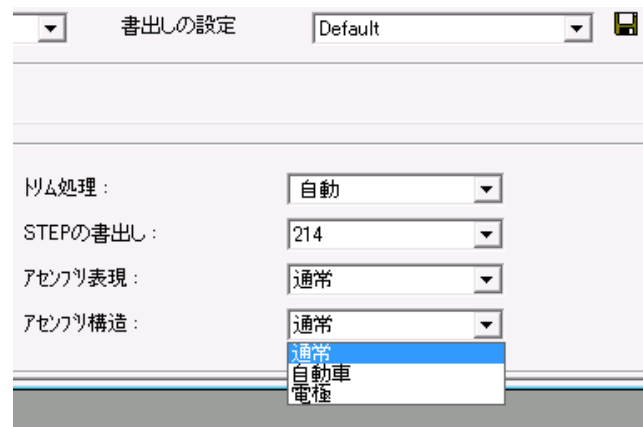
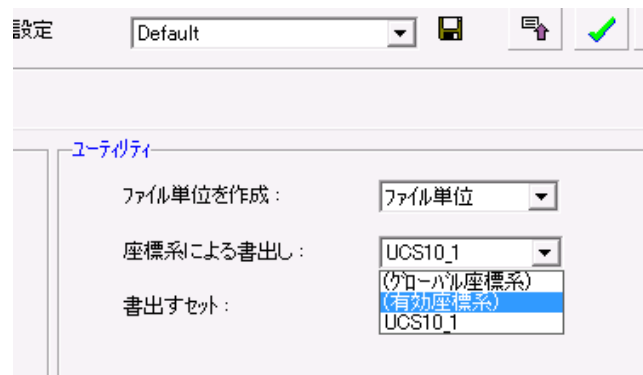
それぞれの出力されたパーツの座標系は、(デフォルト : Normal では) 常に元のモデルの座標系の位置に置かれます。

アセンブリ構造パラメータを用いれば、ユーザーは必要なアセンブリ構造を選択できます。以下のオプションの中から 1 つを選択してください:

- **通常:** それぞれの出力パーツの座標系は元のモデルの座標系上に置かれます。
- **自動車:** 元のアセンブリ座標系がパーツのモデル座標系になるようにパーツを出力する。これはファイル特性に「有効パーツ」属性があるパーツにのみ使用できます。
- **電極:** それぞれのパーツの有効座標系がモデル座標系になるようにパーツを出力します。(アセンブリの読み込みの後)

利点:

- ユーザーがアセンブリ構造パラメータを制御することにより、時間の短縮を図る。



出力

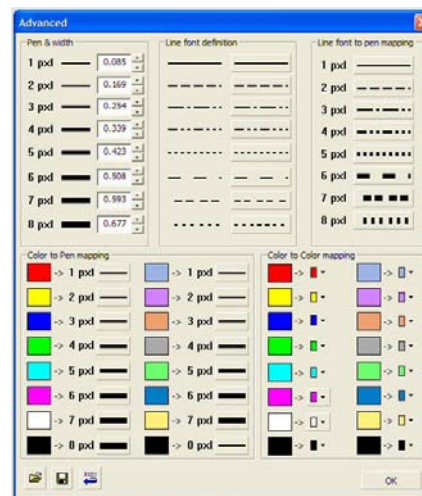
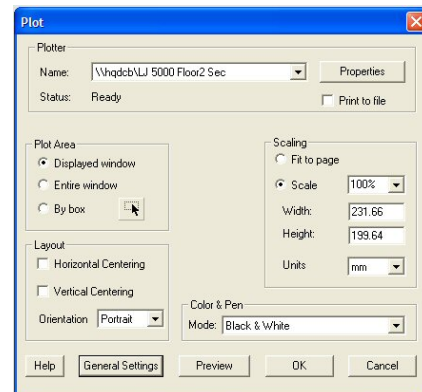
プロット機能 – 機能強化

この新規プロット機能は簡素化され、操作が簡単になりました。ユーザーインターフェイスが新しくなり、オプションも増えました。

新規プロットツールは出力結果に高度な制御を可能にしました。高度一般機能設定タブで、マッピング、ペン、幅、フォントを設定できます。

利点:

- 要求に応じて実プレビューが可能です。
- 画面上のプロット領域の略プレビューは常に使用できます。



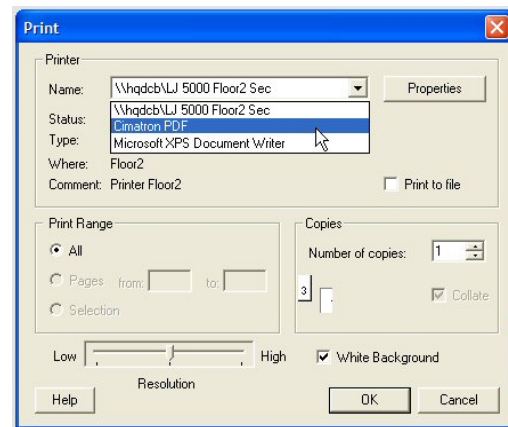
PDFに出力

ファイルを他人に転送する場合、他のフォーマットに変換する必要があります。

CimatronE 9.0 では製図やモデルを 2D として PDF ファイルに変換/印刷することが可能です。こうして変換されたファイルはファイルサイズが小さくなり、E-メールで送ることも可能です。

利点:

- 小さなサイズの製図ファイルを作成できる。
- PDF フォーマットは CimatronE がインストールされていない PC 上でも見ることができる。



ユーザーインターフェイスと表示

マウス中ボタン（MMB）のスクロール

CimatronE 9.0 ではマウスの中ボタン（MMB）を使い、他の要素を簡単に選択できるようになりました。

利点:

- MMB を前/後にスクロールすることにより、他の選択が「他を選択」より簡単になり、時間の短縮になる。

テクスチャの配置

CimatronE 9.0 の新規オプションには、テクスチャをオブジェクトの表面に配置するオプションがあります。

テクスチャを貼り付けるために、ユーザーは上の枠から必要なテクスチャを選択し、そのテクスチャを配置するオブジェクトの表面を選択します。

補足：メインメニューの「表示／テクスチャ」から利用可能。

利点:

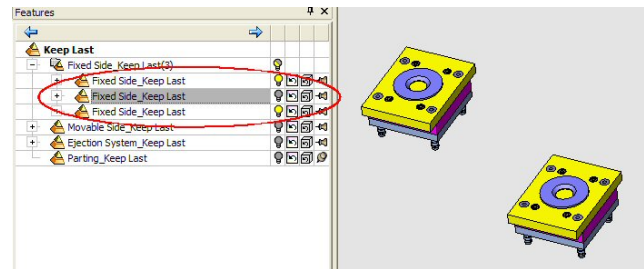
- ユーザーがテクスチャを貼り付けることができるようになり、テキスト機能が充実する。

サブアセンブリ内の表示/非表示 – 改良点

この新規機能はサブアセンブリ項目の表示/非表示を操作します。メインアセンブリが有効な時に、この表示/非表示属性が表示されます。（変更するものを除く）

複数の同一のサブアセンブリがあれば、表示/非表示操作が全ての項目に影響を及ぼすことはありません。

それぞれのノードに表示/非表示を表示させることも可能です。



利点:

- サブアセンブリ項目の表示/非表示を簡単に操作できる。

ZPR-「平面に回転」 – 機能強化

ZPR-「平面に回転」機能を使用時の面の定義の方法に以下の2つの方法が追加されました:

- 3点
- 2直線

この新規オプションを使用し、簡単な入力でコンポーネントを回転できます。

利点:

- 平面の定義の簡素化。

隠れた直線を点線で表示する

CimatronE 9.0 の新規パラメータは隠れた直線を点線で正確に表示させます。

利点:

- 隠れた直線を表示できる。

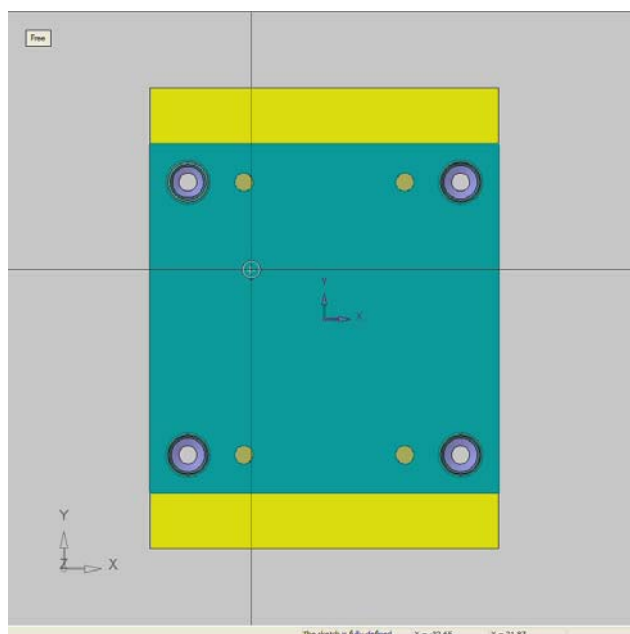
十字カーソル

この新規オプションは、表示カーソルをフル画面の十字カーソルに変更します。カーソルは X、Y 方向に拡張した直線の交点として表示されます。

この機能は他の要素からの参照を簡単にします。

利点:

- X/Y 配列でのユーザーの設定範囲の拡大。



その他の機能

ユーザーカスタマイズファイル： CimatronEをアップグレードしても保持される

ユーザーが CimatronE をアップグレードした時、あるいは旧バージョンを維持しつつ新バージョンをインストールした時、ユーザーがカスタマイズしたファイルは以前のユーザー設定を保持します。

今後はインストール毎にカスタマイズファイルをコピーする必要はありません。

利点:

- 今後はアップグレードの度に設定を再カスタマイズする必要はない。
- アップグレードや新バージョンのインストールの際、CimatronE は自動的にカスタマイズされたファイルを管理する。

ユーザー・プロファイルの保存と管理

設定ファイルを 1 つの PC から他の PC に編集/コピーすることが可能になりました。これにより、会社の全ての PC が共通の設定になります。全ての設定ファイルが集められ、1 つのユーティリティに置かれます。

利点:

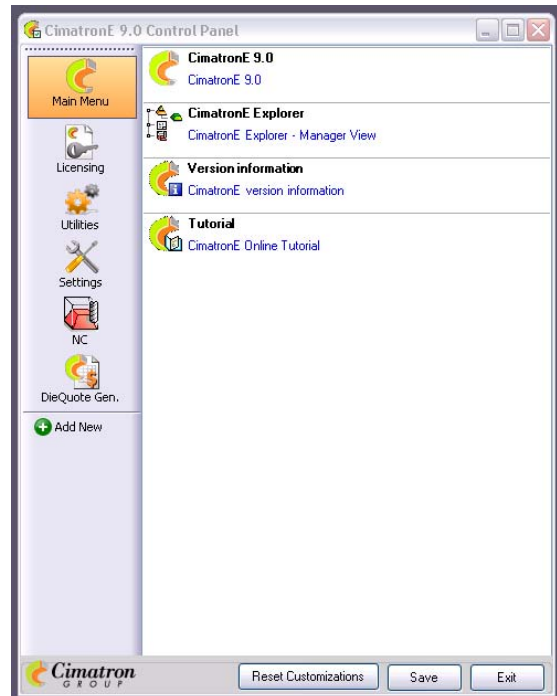
- 設定ファイル編集が簡単になる。
- 設定ファイルを他の PC にコピーするため、設定ファイルを見つけるのが簡単になる。

コントロールパネル

CimatronE 9.0 にはコントロールパネルに新規ダイアログが導入されました。今まで以上に馴染みやすく、直感点なダイアログになりました。

利点:

- 簡単に修正ができる。
- 説明ナビゲーション – 分かりやすいタブ、説明文、アイコン名。
- チュートリアルに直接アクセスでき、「複数起動」モードを起動できる。



ブラウザからCimatronE ウィンドウに、ファイルをドラッグ & ドロップする

CimatronE 9.0 では、他のソフトウェアのようにファイルを Cimatron 内にドラッグ & ドロップできるようになりました。

CimatronE エクスプローラ（Windows のエクスプローラ、その他）から Cimatron ファイルを Cimatron ウィンドウ内にドラッグすると、自動的に CimatronE 内でそのファイルが開きます。

利点:

- 時間短縮とファイルを開く操作の簡素化。

選択 – 無効要素を無視する

もしある操作に無効な要素が選択された場合、無効な要素は無視され、機能が実行されます。

例えば面選択が必要な機能を実行する時、必要な面だけではなく稜線も選択した場合、この無効な要素の稜線は無視し、機能が実行されます。

利点:

- 無効要素を無視することにより時間の短縮。

円筒形状の面の稜線の中心を選択する

もし円筒形状の面が自由形状面と交差している場合、この稜線は円でも楕円でもありません。今まではこのような 3D 稜線の中心を特定することは不可能でした。

CimatronE 9.0 では円筒面の 3D 稜線の中心を定義することが可能になりました。

利点:

- 手動で補助要素を作成する必要がなくなる。

エラー表示 – テーパー、シェル、削除と拡張、オブジェクトの拡張機能

トラブルシューティングの目的で、エラーが発生した要素が強調表示され、ユーザーは簡単に問題のある要素を確認できます。以下の機能で強調表示できます：

- テーパー
- シェル
- 削除と拡張
- オブジェクトの拡張機能

利点：

- 問題の原因が瞬時に分かるため、時間短縮できる。
- トラブルシューティングの手助けになる。

座標系マネージャ

座標系マネージャ(UCS Manager) の新規オプションは、コンポーネントを有効化させずに非表示の座標系を表示できます。

このオプションは座標系マネージャツールを使用した操作を簡単にし、座標系表示を制御できます。

利点:

- 非表示の座標系を簡単に選択できる.
- ユーザーが座標系を選択できる.

